

支部特集 2013

表紙のこぼ (日本の水と森シリーズ)



竜頭の滝 栃木県日光市

華厳の滝、湯滝と並び奥日光三大名瀑の1つに数えられる竜頭の滝は、男体山の噴火によってできた溶岩の上を210mにわたって流れ落ちており、その長さは日本一を誇る。竜頭という名称は、滝壺の近くにある大きな岩によって滝の流れが二分されている様子が竜の頭に似ていることが由来。春はツツジ、秋は紅葉の名所として多くの観光客が訪れる。

奥日光は、日光市街地よりも600m以上高い位置にあり、夏でも平均気温が20度を下回ることから、明治以降は避暑地として栄えている。

CONTENTS

- FUJITSUファミリー会
支部特集 2013 2
- ICT 基礎講座 Close-Up 6
ネットワーク仮想化
- トップは語る10
水澤化学工業株式会社
代表取締役社長 澤田 宏氏
- 講演録12
ピアニスト/東京音楽大学 准教授
川上 昌裕氏
- 豊かに生きる誌上セミナー
HUMAN HUMAN14
株式会社ミュゼ
代表取締役 齋藤 直美氏
- Family's Information15
- 支部見聞録 (東北支部)18
From 石巻

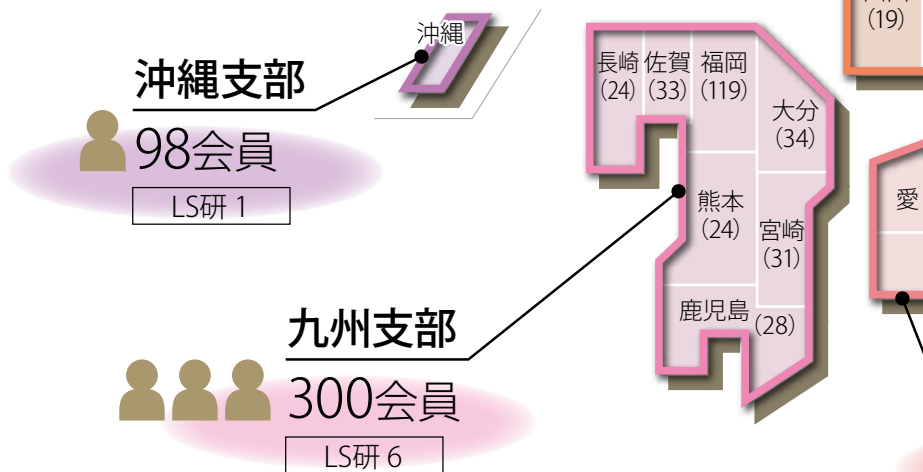
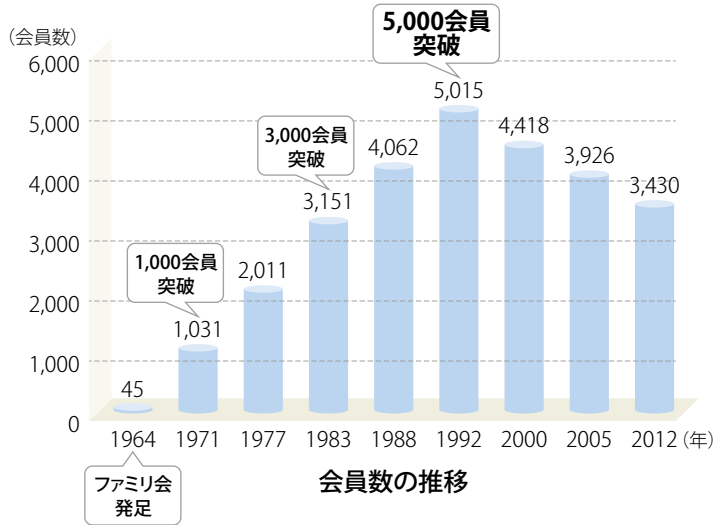
支部別・都道府県別会員数

FUJITSUファミリー会は、1964年富士通ユーザーの相互交流・研鑽を目的にFACOMファミリー会という名称で発足(1992年から現在の名称)し、国内最大級の会員数を誇る情報システム系ユーザー会として、年間400回におよぶ活動を展開しています。

発足当時45会員で始まったファミリー会は、7年後の1971年に1,000会員、1992年には5,000会員を超え、順調に会員数を伸ばしてきました。その後、減少に転じてきていますが、2013年3月末現在3,430会員を有しています。

都道府県別に会員数を比較してみると、東京都、大阪府、愛知県の3大都市圏の会員数がトップ3を占める中、4位に北海道、8位に沖縄県と南北両地域がトップ10に入っています。さらに支部別の比較でも、関東・関西の各支部の会員数が飛び抜けていますが、地域による大きな偏りがないことが特長の1つです。

ヒューマンネットワークの拡大は、新たなビジネスチャンスにつながることでしょう。ぜひ、日本全国に広がる会員との交流を深めてください。

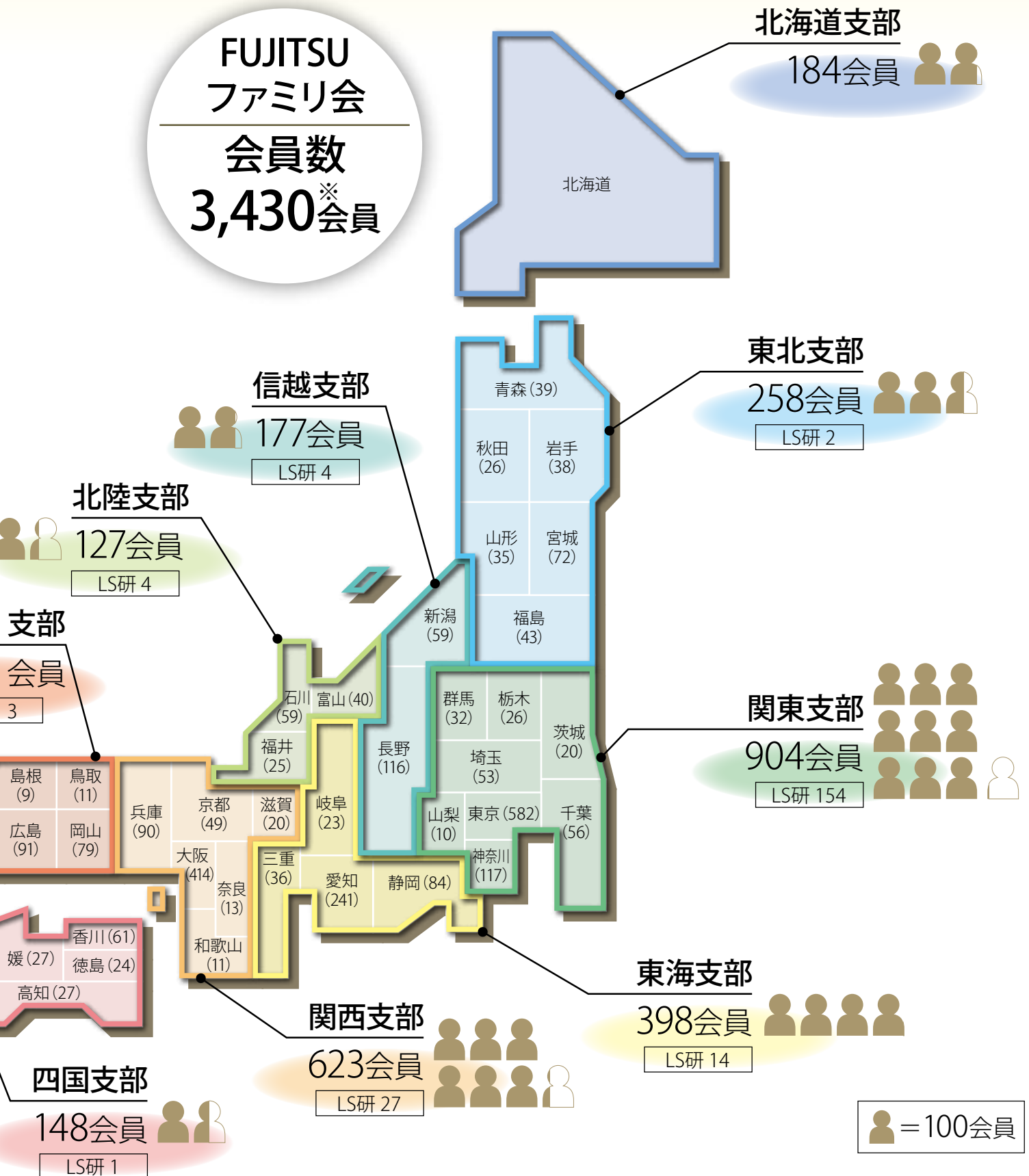


数字から読み解くファミリー会

2014年度に創立50周年を迎えるFUJITSUファミリー会。

50周年に先がけて、ファミリー会3,430会員の“いま”を会員数などから探ってみました。

**FUJITSU
ファミリー会**
会員数
3,430※会員



1人 = 100会員

※2013年3月末現在

業種別会員数

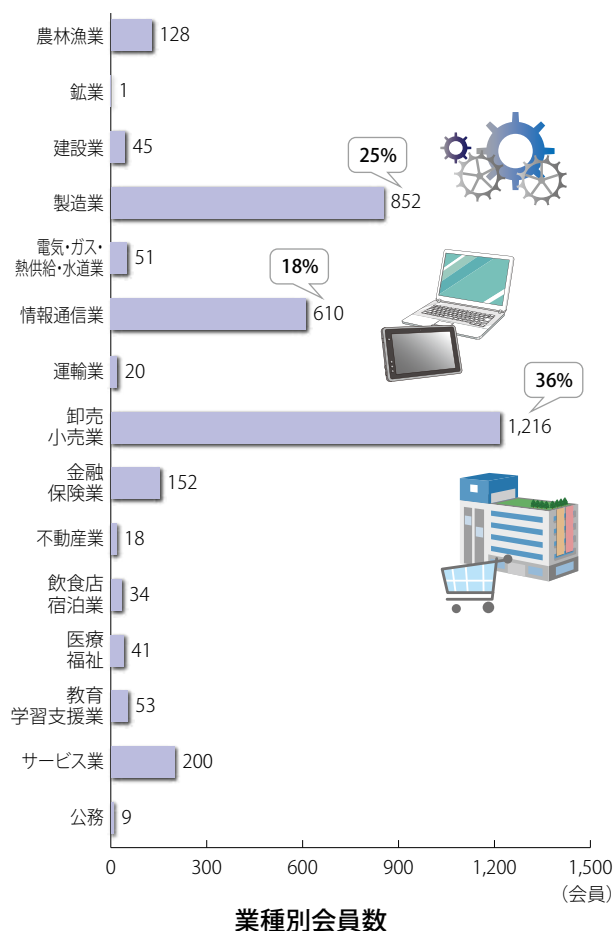
会員企業を業種によって分類した結果では、第1位は1,216会員、約36%を占める卸売・小売業です。支部ごとにみても、全ての支部で30%以上と高い構成比の1位、地域による差はありません。

続いて852会員、約25%の製造業です。全体では2位ですが、関西支部では34.9%、沖縄支部では6.3%と、地域によって大きな差があります。また、総務省統計局の調査^{*}では、製造業の比率は9.2%の第4位という結果がでており、それに比較して製造業の入会率が高いことがわかります。

3位は610会員、約18%の情報通信業です。情報システム系のユーザー会ということもあり、前述の統計局の調査結果1.2%と比べて高い構成比なのは当然かもしれません。

ファミリー会は、15業種という幅広い分野の企業により構成されています。ICTを軸にビジネスを推進していくという共通の目標に向かって異業種の方と交流することで、新たな気づきを得られるかもしれません。ファミリー会が行っている活動を、ぜひビジネスにご活用ください。

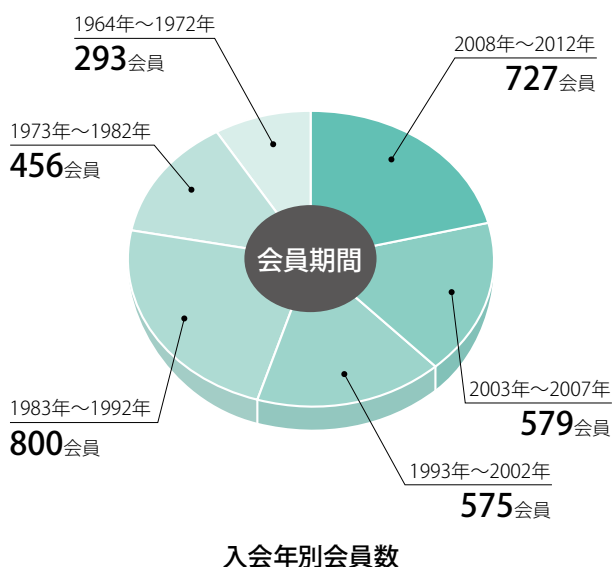
^{*}「平成24年経済センサス活動調査(速報)」(平成25年1月29日発表)



入会年別会員数

現会員の企業がいつ入会されたかを調べた結果、ファミリー会の初期(1964年～1972年)に293会員、全体の約1割の会員が入会されていました。そのうち12会員が1964年の発足当時に入会されています。また全体の23%にあたる800会員が入会されたのは、会員数が急激に増加した1983年から1992年でした。1992年は日本で最初のホームページが公開された年でもあり、各企業において本格的に情報システムの利用が始まった頃と重なります。

入会された年を支部別に比較した結果、1973年以前に入会された会員数が多いのは、関東支部、東海支部、四国支部の順でした。長きにわたりファミリー会を支えている会員が多いことが伺えます。一方、5年以内に入会した会員数が多いのは、九州支部(40%)と沖縄支部(35%)です。ファミリー会の価値を地域に広めていただいた結果が入会につながったと思われます。



ファミリー会の主な活動

情報系システムユーザー会として最大の会員数を誇るファミリー会は、全国活動、支部活動およびLS研究委員会の3組織で運営されています。

全国活動

春と秋に会員が一堂に会する全国大会、FUJITSUファミリー会論文、海外セミナー、会報誌(本誌)の発行などがあります。

春の全国大会は、毎年FUJITSUフォーラムの開催時期にあわせて、東京で開催されます。経済動向に詳しい著名人による講演会や懇親会とともに、ファミリー会役員による総会も開催され、活動方針などが決定されます。

秋の全国大会は、各支部持ち回りで開催されます。地域の文化や歴史に詳しい著名人や地域に根ざしたビジネスを展開している企業の方による講演、ICTの先進事例の発表などが行われます。地域の良さを全国の会員に知ってもらうため、各支部では1年以上前から秋季大会に向けた準備を始めています。

FUJITSUファミリー会論文では、会員企業の成功事例や先進事例など、ICTに関わる様々な事例を募集しています。応募された論文は10名の論文委員によって丁寧に読まれ、アドバイスによる加筆修正を加えたうえで、最終審査が行われます。日々の悩みは、他の方にとっても共通の課題です。皆様の業務の成果を論文にまとめ、他の会員に役立つ事例として残してください。

海外セミナーは、北米のICT動向や経済事情視察を目的に年2回実施されます。研修が中心のプログラムや企業視察に参加して、最先端のICTを肌で感じてください。

支部活動

北海道から九州・沖縄まで、全国11支部で行われている活動は、情報システム部門向けの最新情報の提供だけでなく、人材育成を目的とした部門長向けの研修や、次世代を担う中堅・若手・女性向けの研修など幅広く開催しています。また地域に密着した活動として、会員企業の工場見学や地場産業の施設見学、地元の講師による講座、つり大会やボウリング大会など会員交流のイベントが好評です。

各支部では、テレビ会議を利用したセミナーや、同じテーマのセミナーを複数回開催するなど、会員の皆様に参加しやすい行事になるよう知恵を絞っています。ぜひ、各支部の行事に参加してください。

LS研活動

LS研は、全国11支部活動から独立して設立された特別委員会です。ICTの有効活用や先端技術の研究活動を行うとともに、会員と富士通グループが一堂に会し、会員が抱えている夢の実現に向けて討議する場を提供していることが大きな特長で、「研究活動」「情報共有」「富士通への影響力」の3本柱で活動しています。

研究活動のコアとなるのは、研究分科会の活動です。情報システム部門が抱えている課題をテーマに集まった会員が1年間自主的な研究を実施し、その成果は毎年春に行われる「LS研総合発表会」で発表・表彰されます。2013年度は18の分科会が成立し、2014年3月まで活動しています。

情報共有には、LS研総合発表会やICT白書の発行などがあります。会員間のGive&Takeにより、先進事例に触れ、最新のICT動向や最新技術を知ることができます。

富士通への影響力として、会員と富士通グループのSEや開発部門の責任者が一堂に会し、直接意見交換する場が設けられています。参加者に未発表情報も含めた製品情報を提供するとともに、富士通グループにとっては会員ニーズを製品・サービスに盛り込むことができるというメリットがあります。

他社情報システム系ユーザー会との比較

	会員数	運営体制組織
FUJITSUファミリー会	3,430	本部・11支部・LS研
N社	2,379	13組織
I社	1,949	15組織・IT研究会
H社	1,123	10支部・4分科会
U社	580	本部・10支部
T社	432	9支部
M社	270	本部・4支部

(2013年3月現在)

